

1 研究主題

子どもたちが楽しく音楽活動に取り組む手だての研修を深める。

2 研究の概要

研究主題のもとに、合唱指導・実技講習、器楽合奏実技研修、授業研究の3回の研修を行い、楽しい音楽活動への手だてを探った。

3 研究の実際

(1) 合唱指導・実技講習について

6月、巣本小学校において、森祐子様を講師に迎えて合唱の研修を行った。前半は、4・5年児童による「つばめのように」の合唱指導をしていただいた。扇子を広げたような感じで胸を広げる、おなかの下に力を入れて鼻からストローを入れる感じで息を吸うなど、言葉と身体表現を取り入れて具体的に説明されたので、児童はすぐに受け止めて発声に活かしていた。後半は、部員が指導を受けた。森祐子先生は、「歌は体が楽器である。」ことから、声を出す前に背中に棒を入れた感じで経つ、鼻と口から空気を入れるなどの準備をしっかりとしておくことが大切であること、歌には詞があることなど、例を挙げて説明され、発声や合唱指導について学ぶことができた。

(2) 合奏演奏を通した技術の向上について

音楽の教科書の中から各学年1曲ないし2曲の合奏曲を選択したり、担当楽器に分かれグループごとの練習を取り入れたり、全員で合奏をしたりすることを通し、充実感・一体感・満足感などを味わうことができた。実践を通して、児童が楽しく合奏活動に取り組める方策を模索することができた。

(3) 授業研究について

10月、五泉市立大蒲原小学校において、佐藤栄教諭による授業をもとに、研究を行った。



授業者は、器楽への意欲をもち、好んで練習して技能を上達してほしいという願いをもって本時に臨んだ。本時のねらいは、「どんな曲にしたいかイメージをもち、旋律の音の動きを工夫して、和音に含まれる音を使った旋律づくりができる。」である。授業者がハ長調の和音を弾き、児童が聞き分ける活動を行った後、「楽しくなる曲」「やさしい気持ちになる曲」「勇気づけられる曲」の三つのイメージを提示し、音の動きの特徴を使ってグループで旋律作りの活動に入った。どのグループも、一人一人が自分の考えを伝えていたり、友だちの考えに反応したりする姿が見られ、意欲的に活動していた。協議会では、一人でメロディを作ってみてはどうか、選んだ音に○をつけ音の高低を分かりやすくしてはどうか、実際に楽器で音を出しながら作らせてみたらどうか、などの意見が出された。授業を通して、実践に役立てられる音楽作りの有効な手立てを考える良い研修となった。

4 成果と課題

3回の研修を通し、講師による指導をいただいたり、部員同士が意見交換や情報交換をしたりして、授業改善への新たな手だてを見つけることができた。また、研修で学んだことを実践につなげていき、子どもたちが楽しく音楽活動に取り組む姿を目指していきたい。